植田っ子

令和５年度
学校便り NO.８　１２月号
高松市立植田小学校
令和５年１１月３０日発行

広島平和学習

１１月２２日（水）に、６年生が広島平和学習を行いました。

東植田小学校の６年生と合同で、広島平和記念公園まで行き、戦争の悲惨さや平和の大切さについて学びました。

まず、原爆の子の像のところへ行き、持参した千羽鶴を献納しました。

次に、被爆体験講話を聴きました。戦争当時の生活や原子爆弾が落ちた時の様子など具体的な状況を聴き、戦争は絶対にしてはいけないということを強く思いました。特に、言論の自由がなくなることの怖さを痛感しました。

それから、広島平和記念資料館を見学しました。焼け焦げた学生の制服や、ぐにゃりと曲がった三輪車など、爆風や爆発熱のすさまじさに言葉が出ませんでした。

その後、平和公園内をグループに分かれて見学することもできました。

見学を通して、２度と戦争をしてはいけないと強く感じましたが、今現在、戦争をしている国もあります。戦争をなくすために自分に何ができるのか、何をしなければならないのか、自分事としてしっかりと考えていきたいと思いました。

広島平和学習では、東植田小学校の皆さんも、植田小学校の皆さんも仲よく学ぶことができました。この「仲よくする」ということがとても大切なことだと強く感じました。誰とでも仲よくする。相手を尊重して接する。簡単なことのようで、難しいことなのかもしれません。

「みんな、なかよく」は、『二十四の瞳』の作者、壺井栄の言葉でもあります。誰からも強制されることなく、相手を尊重することと今の私は理解しています。この言葉の深い意味をしっかりと考えていきたいと平和学習を通して再認識しました。